

2013/6/6

柏の景気情報（平成25年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年5月分）

○ 調査期間 : 平成25年5月21日 ~ 5月24日

○ 調査対象 : 柏市内158事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	158	91	57.6%
建設	44	24	54.5%
製造	34	18	52.9%
卸・小売	44	33	75.0%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年5月の調査結果のポイント】

＜業況DI値は再び改善するも、先行き不透明感が続く＞

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.6(前月水準▲24.7)となり、マイナス幅が6.1ポイント改善した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△12.5(同△8.3)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△12.5(同▲4.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲51.5(同▲58.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同▲5.5)であり、マイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】からは、「各種助成金、木材利用ポイントなど、優遇措置がこれから目白押しですが理解できていない」(一般土木建築工事業)、「着工時期、完工時期にずれ。9月完了時期は変わらず集中する見込み」(管工事業)、「マスコミで報道されている程、景気状況が明るくはなっていない。小規模の工事が増えているのでこれから期待している」(電気工事業)、「消費税増税の影響か、新築工事・リフォーム工事の急な見積り依頼が増えているが、相変わらず施工単価の見直しはなく厳しい受注単価での競争となっている」(その他の職別工事業)、「去年度より業種にかかわらず仕事があるようだ」(土木工事業)、「近隣の社宅の大規模改修工事の受注があり、畳工事が増えました」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「受注量が増加傾向にある。工場稼働率も上昇して来た。止まっていた案件も動き出して来たように感じられる。しかしながら、決定価格は相変わらず厳しくかなりのコストダウンが求められる」(特殊産業用機械)、「引合から受注に向けた動きはあるが、短納期の要求が強くなっている」(その他の機械・同部品製造業)、「資金繰の融資でさえままならない零細企業では、設備投資も人員増加も考えられない状況です」(印刷業)、「弊社が得意とする関連の輸出が不透明であり、加工依頼が減少している」(一般産業用機械・装置製造業)、「年度の始めとあって仕事の動きが止まってしまった。夏以降に期待している」(建築用・建設用金属製品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料品や雑貨に関しては天候・気温の影響が大きく、なかなか景気回復の実感が湧いてこない」(百貨店)、「輸入原料が中心の商品は大幅に原価が上がると思う」(その他の各種商品小売業)、「中旬以降気温は徐々に安定してきたことから夏物衣料も動き出した」(その他の各種商品小売業)、「景気が上向きと言っていますが、実感は全くありません」(菓子・パン小売業)、「売上・客数共わずかではあるが上昇」(その他の各種商品小売業)、「油、小麦粉など輸入品目の値上」(その他の飲食料品小売業)、「最近の青果物は、気候に左右されて生育が著しく成長し、野菜では入荷量増のため安値取引の傾向となっています」(食料・飲料卸売業)、「一時停滞していたオール電化への転換率が高まっているため経営悪化を懸念」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊の稼働は安定するも一室単価の減少が続く」(ホテル)、「企業の業績回復に伴い、宴会場のご利用が好調」(ホテル)、「一時天候不順(涼しい)の為夏物関係は不調でしたが暑さが戻り好調」(その他の飲食料品小売業)、「個人需要は、国内は堅調。法人需要は動きが鈍い感がある」(旅行業)、「株価上昇の影響で東京ではマンションが売り出し即日完売等。上向いているようですが柏界限ではまだまだ雰囲気だけといったところ」(不動産代理業・仲介業)、「少しづつですが、市況は好転しています」(不動産管理業)、「柏といえども殿様商売の賃料を続けている場合ではないと近隣地域を回り思います」(不動産賃貸業)、「北部新市街地も発展途上の為か、町が賑わうには時間と手間と知恵が掛かりそうです」(不動産賃貸・管理業)、「前月と相変わらず。特機する技術を持っている部分のみプラス傾向」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入れ価格上昇

各業種から、「輸入原材料の値上げと重なり業況見通しは厳しい」(その他の職別工事業)、「仕入や人件費が少しずつ上がっている」(土木工事業)、「燃料、材料費がどんどん上がるので経常利益ベースでは引続き苦しい状態」(内装工事業)、「仕入価格がほんの少しであるが上昇してきた。今後はさらに上昇が予測される。特に輸入原料が中心の商品は大幅に原価が上がると思う」(その他の各種商品小売業)、「円安の影響でこれからもっと仕入れ原価が上がり、利益への圧迫の懸念がされている」(各種食料品小売業)、「原材料価格上昇を受けて、仕入単価も上がって来ている」(その他の各種商品小売業)、「食材(フルーツ、エビ、マグロ等)の値上がりりが原価を圧迫」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

◎円安の影響

各業種から、「円安の影響と思うが工場内で使用する石油関係の製品が値上りして、経費負担が増加している」(一般産業用機械・装置製造業)、「アベノミクス効果による株高・円安影響で世の中の景気は確実に回復に向かっているとは思う」(百貨店)、「円安の「悪」の影響が続いている」(その他の各種商品小売業)、「円安の影響でこれからもっと仕入れ原価が上がり、利益への圧迫の懸念がされている」(各種食料品小売業)、「円安で、輸入食材の値上がりりが心配」(菓子・パン小売業)、「不動産業界では円安」(不動産代理業・仲介業)などのコメントが寄せられた。

◎ゴールデンウィーク

各業種から、「例年ゴールデンウィーク後売上げが停滞するが、今年はそこそこ出ている」(婦人・子供服小売業)、「5月度GW、気温は低めだったものの、3日(金・祝)・4日(土・祝)の2日間で実施したキャンペーンが奏功し、ファッション商品を中心に堅調に推移した」(その他の各種商品小売業)、「GW明けは厳しい状況が続いています」(菓子・パン小売業)、「ゴールデンウィーク中の新規客の来館が少なかった」(冠婚葬祭業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲23.7	▲14.2	±0.0	▲54.5	▲5.8
1月	▲22.4	▲10.3	▲27.7	▲39.3	▲5.5
2月	▲22.9	▲17.2	▲27.7	▲41.1	△13.3
3月	▲17.3	±0.0	▲11.1	▲35.2	▲11.7
4月	▲24.7	▲4.3	▲5.5	▲58.3	△8.3
5月	▲18.6	△12.5	▲27.7	▲51.5	△12.5
見通し	▲15.3	△12.5	▲16.6	▲45.4	△6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年5月の業況についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.6(前月水準▲24.7)となり、マイナス幅が6.1ポイント改善した。

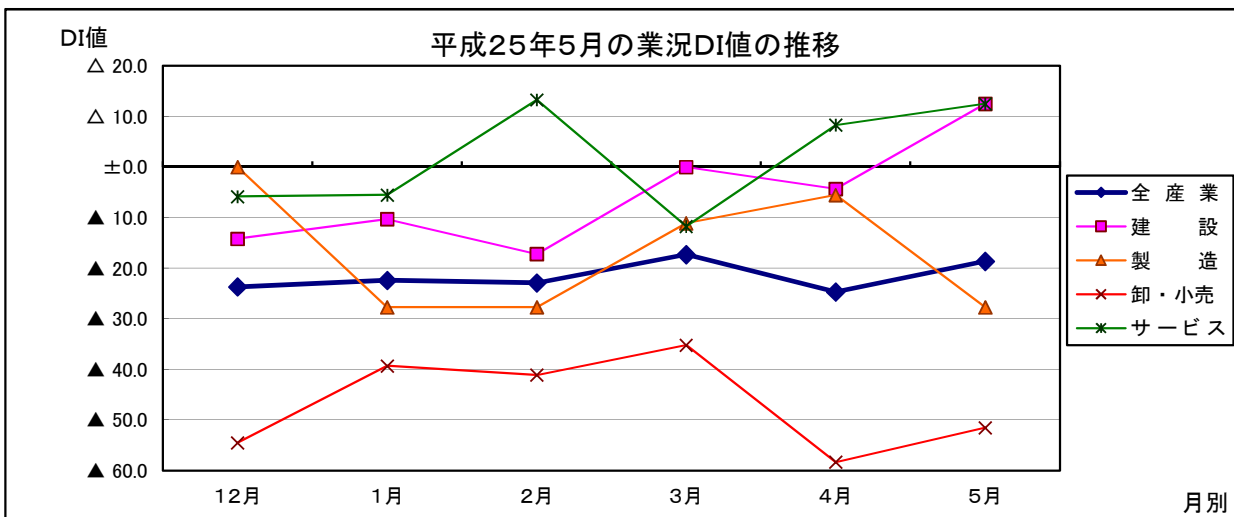
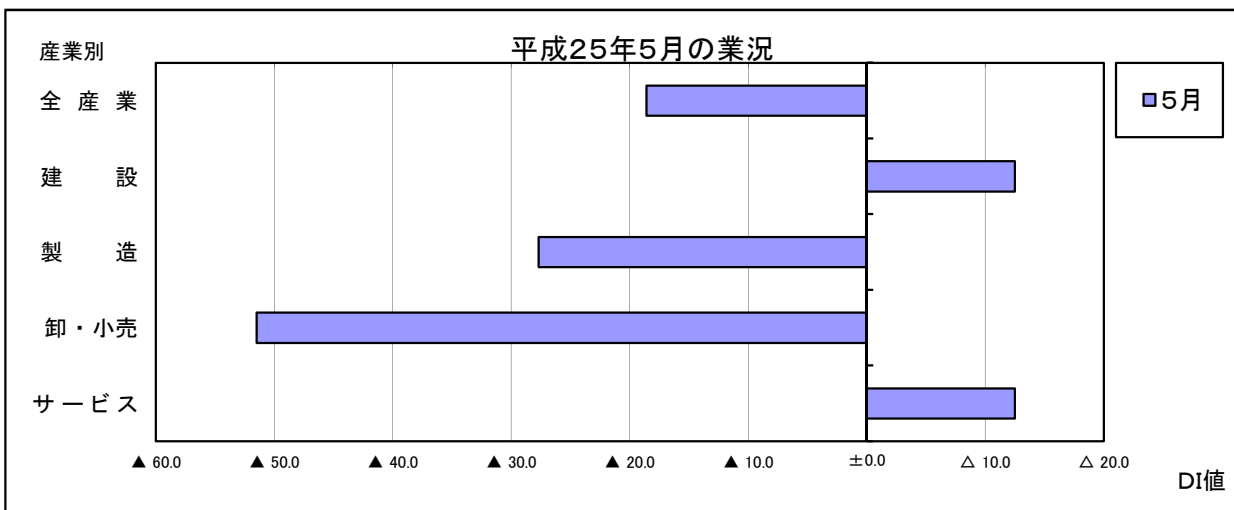
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△12.5(同△8.3)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△12.5(同▲4.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲51.5(同▲58.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同▲5.5)であり、マイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.3(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が1.5ポイント改善する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△12.5(同△4.3)、サービス業△6.2(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲16.6(同▲27.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲45.4(同▲30.5)である。

平成25年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲23.7	▲22.4	▲22.9	▲17.3	▲24.7	▲18.6	▲15.3(▲16.8)
建設	▲14.2	▲10.3	▲17.2	±0.0	▲4.3	△12.5	△12.5(△4.3)
製造	±0.0	▲27.7	▲27.7	▲11.1	▲5.5	▲27.7	▲16.6(▲27.7)
卸・小売	▲54.5	▲39.3	▲41.1	▲35.2	▲58.3	▲51.5	▲45.4(▲30.5)
サービス	▲5.8	▲5.5	△13.3	▲11.7	△8.3	△12.5	△6.2(±0.0)



【平成25年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.0(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が8.2ポイント改善した。

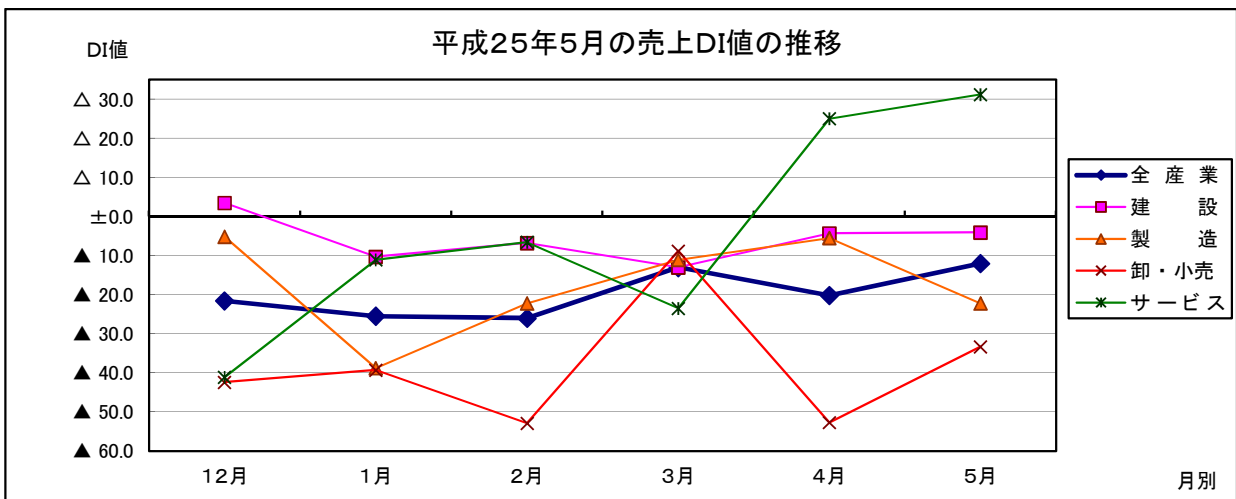
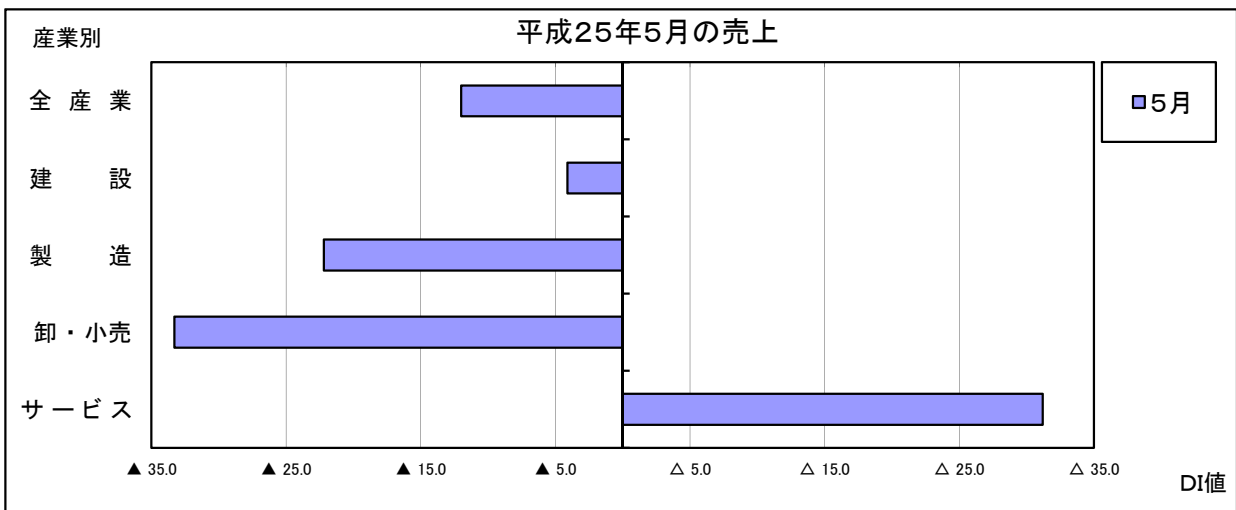
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△31.2(同△25.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲52.7)、建設業▲4.1(同▲4.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲22.2(同▲5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.1(前月水準▲8.9)となり、マイナス幅が6.8ポイント改善する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△16.6(同△4.3)、サービス業△6.2(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲22.2)であり、プラス幅が22.2ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲21.2(同▲13.8)である。

平成25年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲21.6	▲25.5	▲26.0	▲13.0	▲20.2	▲12.0	▲2.1(▲8.9)
建設	△3.5	▲10.3	▲6.8	▲13.0	▲4.3	▲4.1	△16.6(△4.3)
製造	▲5.2	▲38.8	▲22.2	▲11.1	▲5.5	▲22.2	±0.0(▲22.2)
卸・小売	▲42.4	▲39.3	▲52.9	▲8.8	▲52.7	▲33.3	▲21.2(▲13.8)
サービス	▲41.1	▲11.1	▲6.6	▲23.5	△25.0	△31.2	△6.2(±0.0)



【平成25年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲35.9)となり、マイナス幅が14.0ポイント改善した。

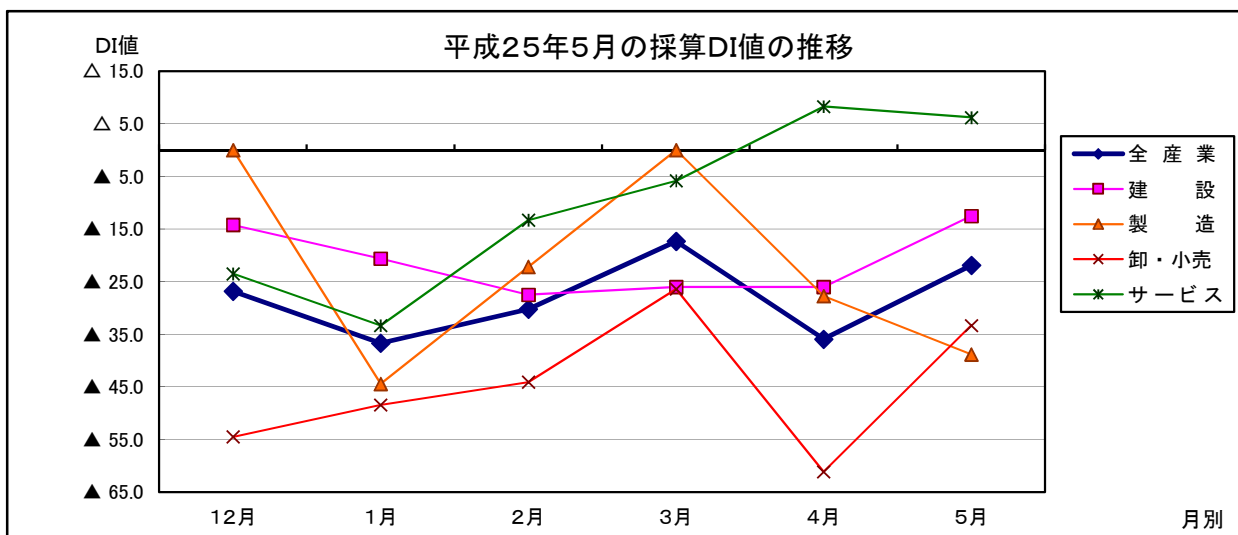
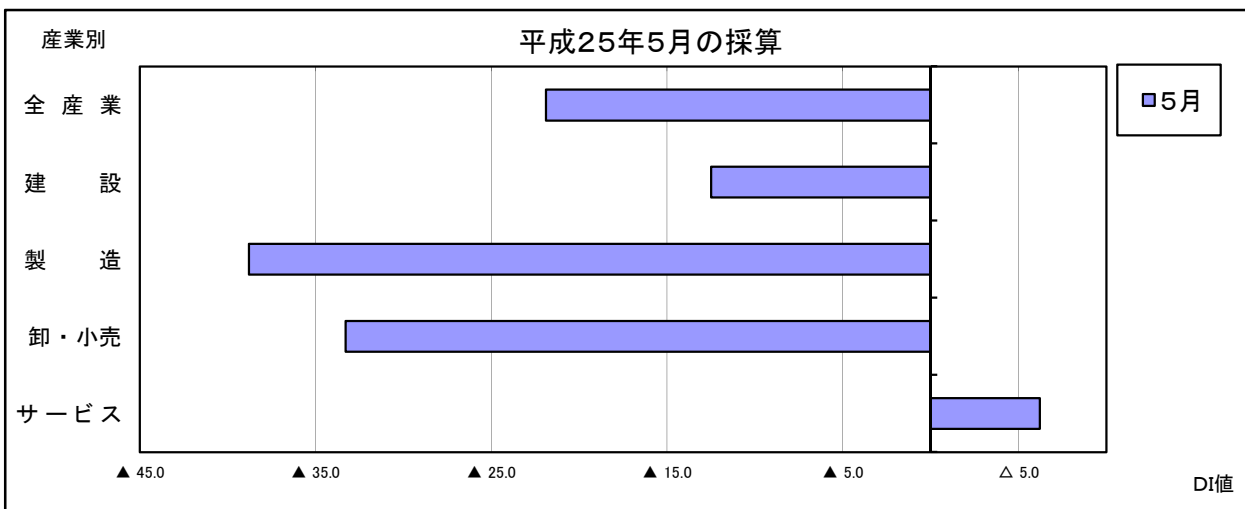
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲61.1)、建設業▲12.5(同▲26.0)であり、特に、卸小売業はプラス幅が27.8ポイントと大幅に改善した。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.2(同△8.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲38.8(同▲27.7)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.5(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲22.2)、建設業▲4.1(同▲13.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲19.4)、サービス業▲12.5(同▲8.3)である。

平成25年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲26.8	▲36.7	▲30.2	▲17.3	▲35.9	▲21.9	▲17.5(▲16.8)
建設	▲14.2	▲20.6	▲27.5	▲26.0	▲26.0	▲12.5	▲4.1(▲13.0)
製造	±0.0	▲44.4	▲22.2	±0.0	▲27.7	▲38.8	▲11.1(▲22.2)
卸・小売	▲54.5	▲48.4	▲44.1	▲26.4	▲61.1	▲33.3	▲33.3(▲19.4)
サービス	▲23.5	▲33.3	▲13.3	▲5.8	△8.3	△6.2	▲12.5(▲8.3)



【平成25年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.0(前月水準▲40.4)となり、マイナス幅が6.4ポイント改善した。

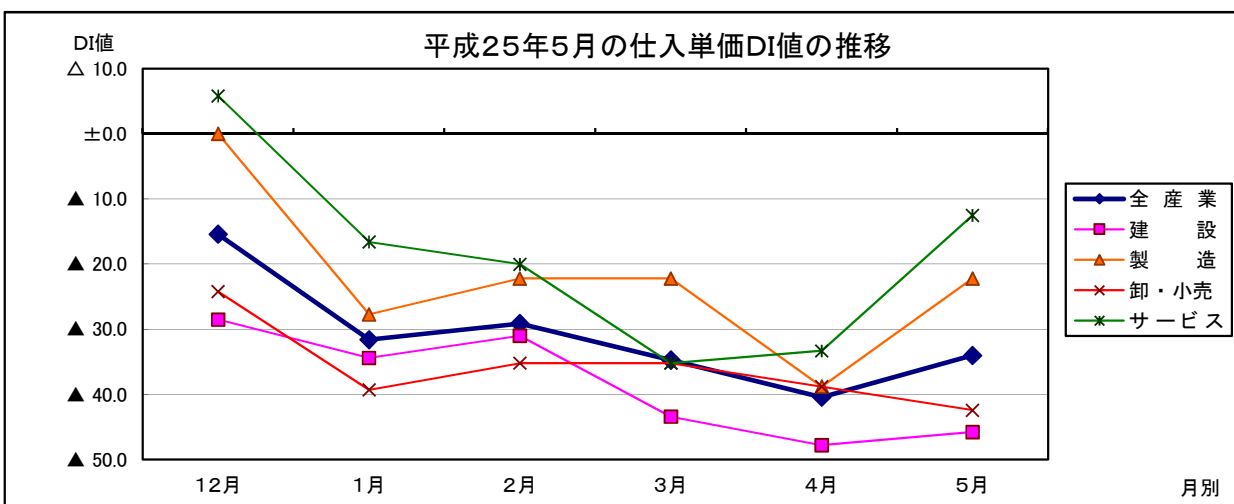
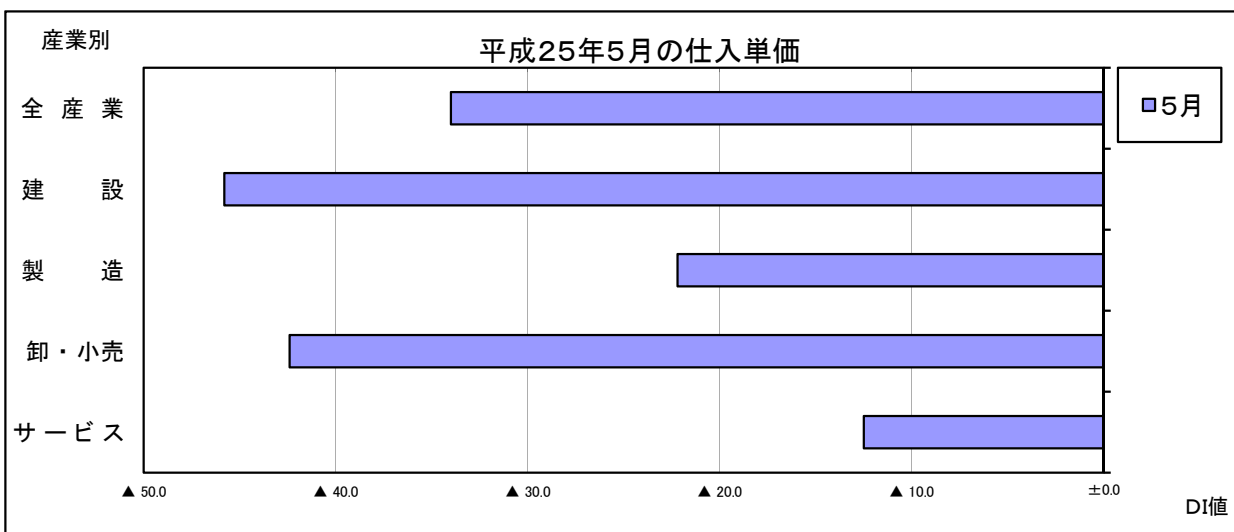
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲12.5(同▲33.3)、製造業▲22.2(同▲38.8)、建設業▲45.8(同▲47.8)であり、特に、サービス業はプラス幅が20.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.4(同▲38.8)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.7(前月水準▲38.2)となり、マイナス幅が7.5ポイント改善する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲27.7)、サービス業▲25.0(同▲33.3)、建設業▲33.3(同▲39.1)、卸小売業▲42.4(同▲44.4)である。

平成25年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲15.4	▲31.6	▲29.1	▲34.7	▲40.4	▲34.0	▲30.7(▲38.2)
建設	▲28.5	▲34.4	▲31.0	▲43.4	▲47.8	▲45.8	▲33.3(▲39.1)
製造	±0.0	▲27.7	▲22.2	▲22.2	▲38.8	▲22.2	▲11.1(▲27.7)
卸・小売	▲24.2	▲39.3	▲35.2	▲35.2	▲38.8	▲42.4	▲42.4(▲44.4)
サービス	△5.8	▲16.6	▲20.0	▲35.2	▲33.3	▲12.5	▲25.0(▲33.3)



【平成25年5月の従業員についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.4(前月水準▲6.7)となり、マイナス幅が1.3ポイント改善した。

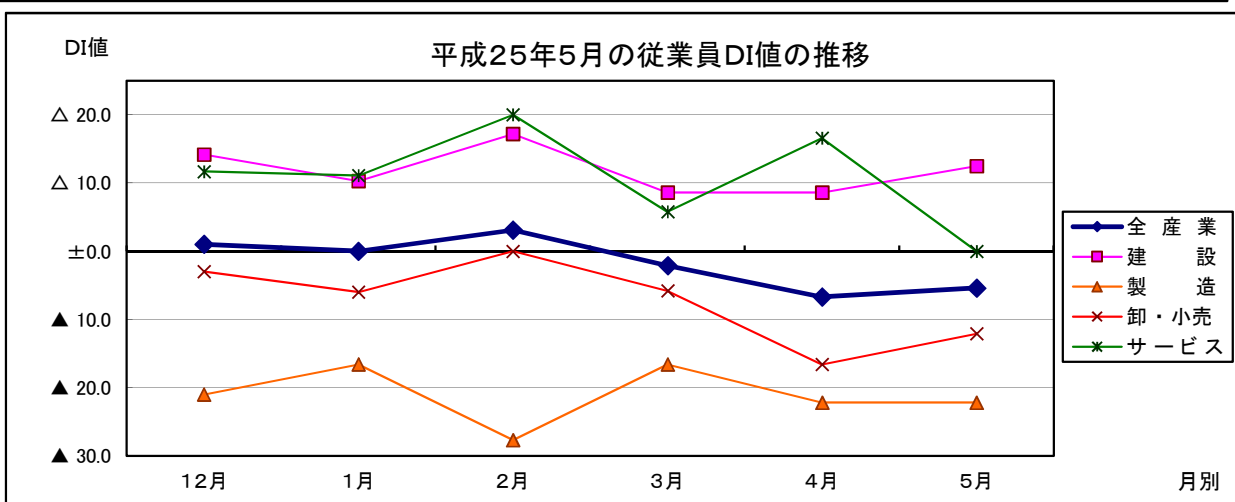
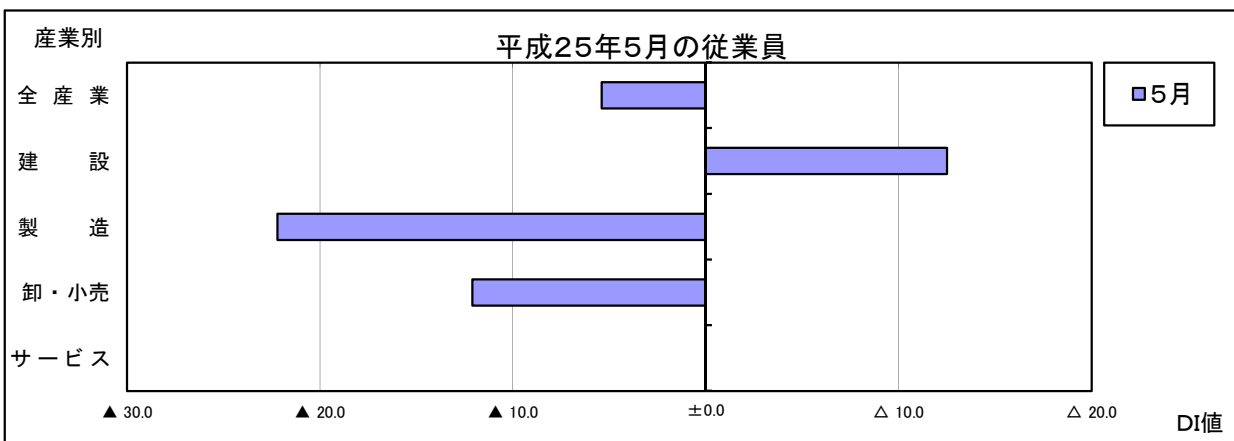
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△12.5(同△8.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲12.1(同▲16.6)である。変らない業種は、製造業▲22.2(同▲22.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△16.6)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.2(前月水準▲3.3)となり、マイナス幅が0.1ポイント改善する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△12.5(同△8.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲9.0(同▲11.1)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲16.6(同▲5.5)である。

平成25年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△1.0	±0.0	△3.1	▲2.1	▲6.7	▲5.4	▲3.2(▲3.3)
建設	△14.2	△10.3	△17.2	△8.6	△8.6	△12.5	△12.5(△8.6)
製造	▲21.0	▲16.6	▲27.7	▲16.6	▲22.2	▲22.2	▲16.6(▲5.5)
卸・小売	▲3.0	▲6.0	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲12.1	▲9.0(▲11.1)
サービス	△11.7	△11.1	△20.0	△5.8	△16.6	±0.0	±0.0(±0.0)



【平成25年5月の資金繰りについての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.5(前月水準▲8.9)となり、マイナス幅が2.4ポイント改善した。

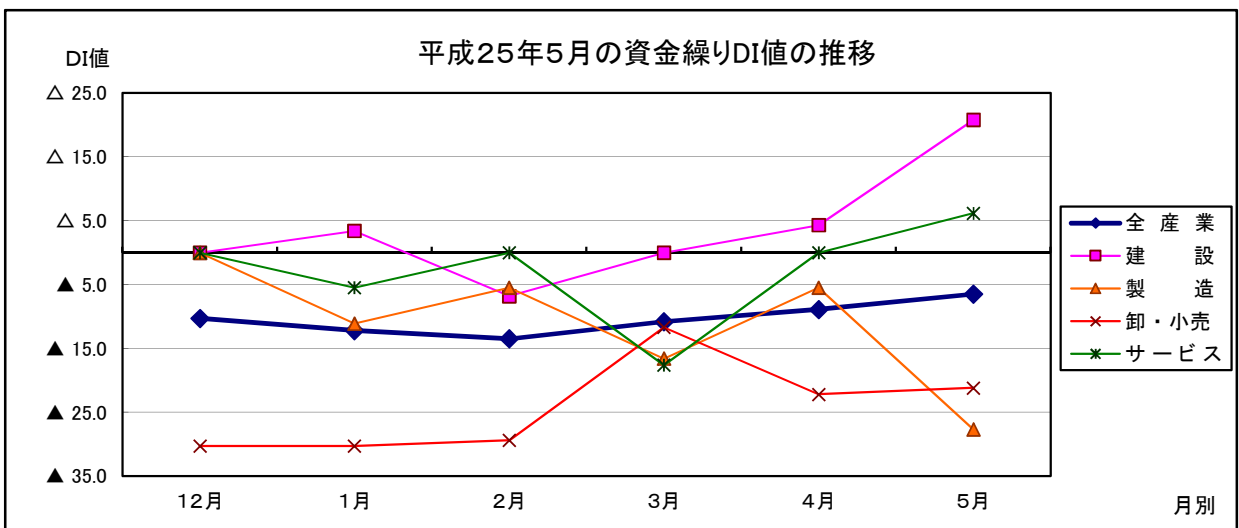
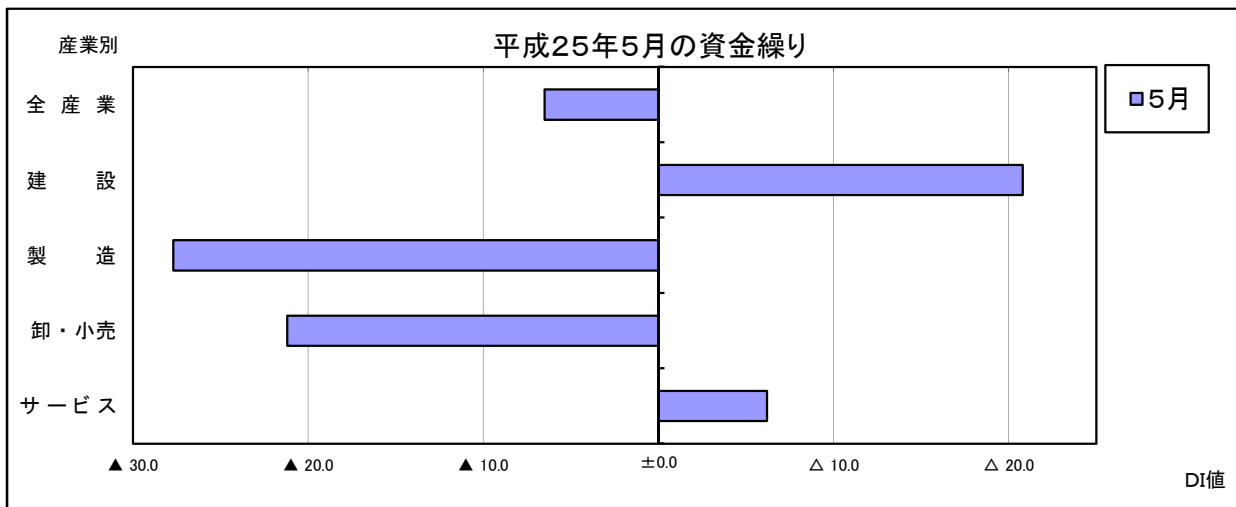
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△20.8(同△4.3)、サービス業△6.2(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21.2(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同▲5.5)であり、マイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.9(前月水準▲6.7)となり、マイナス幅が▲4.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.2(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△12.5(同△13.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲5.5)、卸小売業▲27.2(同▲22.2)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成25年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲10.3	▲12.2	▲13.5	▲10.8	▲8.9	▲6.5	▲10.9(▲6.7)
建設	±0.0	△3.4	▲6.8	±0.0	△4.3	△20.8	△12.5(△13.0)
製造	±0.0	▲11.1	▲5.5	▲16.6	▲5.5	▲27.7	▲27.7(▲5.5)
卸・小売	▲30.3	▲30.3	▲29.4	▲11.7	▲22.2	▲21.2	▲27.2(▲22.2)
サービス	±0.0	▲5.5	±0.0	▲17.6	±0.0	△6.2	△6.2(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.0	▲ 2.1	▲ 21.9	▲ 17.5	▲ 34.0	▲ 30.7	▲ 5.4	▲ 3.2
建設	▲ 4.1	△ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.1	▲ 45.8	▲ 33.3	△ 12.5	△ 12.5
製造	▲ 22.2	±0.0	▲ 38.8	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 16.6
卸・小売	▲ 33.3	▲ 21.2	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 42.4	▲ 42.4	▲ 12.1	▲ 9.0
サービス	△ 31.2	△ 6.2	△ 6.2	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 25.0	±0.0	±0.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.6	▲ 15.3	▲ 6.5	▲ 10.9
建設	△ 12.5	△ 12.5	△ 20.8	△ 12.5
製造	▲ 27.7	▲ 16.6	▲ 27.7	▲ 27.7
卸・小売	▲ 51.5	▲ 45.4	▲ 21.2	▲ 27.2
サービス	△ 12.5	△ 6.2	△ 6.2	△ 6.2

【平成25年5月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	各種助成金、木材利用ポイントなど、優遇措置がこれから目白押しですが、理解できていない。消費者、まして業者もわかっていない現状がある。もっと、政府も各種優遇の制度をわかりやすく消費者に伝える必要がある。	助成金 優遇措置 制度の普及	一般土木建築工事業
	着工時期、完工時期にずれ。9月完了時期は変わらず集中する見込み。	工期のずれ	管工事業
	マスコミで報道されている程、景気状況が明るくはなっていない。小規模の工事が増えているのでこれからに期待している。	マスコミ報道 小規模受注増 先行き期待	電気工事業
	公共工事がまだ出ていないので変化なしです。	公共工事	一般土木建築工事業
	4月に入ってから新築工事の件数がかかり減少。輸入原材料の値上げと重なり業況見通しは厳しい。4・5・6月は毎年売上減少となるものの、今年は4・5月は例年にならぬ落ち込みとなった。ただ6月からの受注件数は確保、忙しくなりそう。消費税増税の影響か、新築工事・リフォーム工事の急な見積り依頼が増えているが、相変わらず施工単価の見直しはなく厳しい受注単価での競争となっている。	原材料の値上げ 消費税 見積り依頼急増 受注単価	その他の職別工事業
	去年度より業種にかかわらず仕事があるようだ。仕入や人件費が少しづつ上がっている。他社と競合しない分野の割合を増やすことが大切だと思う。	受注増 仕入れ価格上昇	土木工事業
	近隣の社宅の大規模改修工事の受注があり、畳工事が増えました。燃料、材料費がどんどん上がるので経常利益ベースでは引続き苦しい状態が続きますが、畳工事の依頼が増える事を祈ります。	受注増 原材料の値上げ 経常利益	内装工事業
製造業	受注量が増加傾向にある。工場稼働率も上昇して来た。止まっていた案件も動き出して来たように感じられる。しかしながら、決定価格は相変わらず厳しくかなりのコストダウンが求められる。	受注増 稼働率上昇 コストダウン	特殊産業用機械
	引合から受注に向けた動きはあるが、短納期の要求が強くなっている。	短納期	その他の機械・同部品製造業
	今年度、堅調に推移。	堅調に推移	酒類製造業
	マスコミの長期金利上昇の報道が出る度に心が萎えていきます。資金繰りの融資でさえままならない零細企業では、設備投資も人員増加も考えられない状況です。銀行さんの方では警戒心が増し、積極的な姿勢を撤回し、出来るだけ銀行がリスクを負わないように、保証協会付きの融資を勧めます。担保評価を低く見積もり、個人ローンの高金利に誘導しているように感じられます。	マスコミ報道 長期金利上昇	印刷業
	弊社が得意とする関連の輸出が不透明であり、加工依頼が減少している。また、円安の影響とかが工場内で使用する石油関係の製品が値上がりして、経費負担が増加している。	輸出不透明 受注額の減少 円安の影響 石油製品値上がり 経費負担増	一般産業用機械・装置製造業
	年度の始めとあって仕事の動きが止まってしまった。夏以降に期待している。	年度始め 先行き期待	建築用・建設用金属製品製造業
	アベノミクス効果による株高・円安影響で世の中の景気は確実に回復に向かっていると思うが、百貨店に関しては、その兆候こそあるものの(e.g. 高級輸入時計の売上伸長など)衣料品や雑貨に関しては天候・気温の影響が大きく、なかなか実感が湧いてこない。	アベノミクス 円安の影響 高額商品 天候の影響	百貨店
売れ筋商品が無いので品揃えに腐心している。例年これを揃えておけばというアイテムがあるのだが、逆にこの夏は何でも有り感が強い。例年ゴールデンウィーク後売上げが停滞するが、今年はそこそこ出ている。単価が低い為売上げ的には去年並。	GW 低単価	婦人・子供服小売業	

【平成25年5月の業種別業界内トピックス】

卸小売業	仕入価格がほんの少しであるが、上昇してきた。今後はさらに上昇が予測される。特に輸入原料が中心の商品は大幅に原価が上がると思う。	仕入れ価格上昇 輸入原料 原価上昇	その他の各種商品小売業
	5月度GW、気温は低めだったものの、3日(金・祝)・4日(土・祝)の2日間で実施したキャンペーンが奏功し、ファッション商品を中心に堅調に推移した。また、今年はステージイベントを強化したことから、館の回遊アップが売上げにも繋がった。母の日需要は大きな盛り上がりはみせなかったものの、前年同様、ギフトよりもレストランの利用でのプレゼントに移行傾向が見て取れた。中旬以降気温は徐々に安定してきたことから、夏物衣料も動き出し、月末に掛けては販売力を強化し売上げに繋げていく。	GW キャンペーン ステージイベント 販売力強化	その他の各種商品小売業
	円安の「悪」の影響が続いている。 他県からの競合店舗が近隣に出店してきて、売上に影響が出てきている。また、円安の影響でこれからもっと仕入れ原価が上がり、利益への圧迫の懸念がされている。	円安の影響 競合店の出店 円安の影響 仕入れ価格上昇 利益圧迫	その他の各種商品小売業 各種食料品小売業
	景気が上向きと言っていますが、実感は全くありません。GW明けは厳しい状況が続いています。中小に景気回復の実感がわくのはまだまだ先のようです。	景気改善実感なし GW 厳しい状況	菓子・パン小売業
	原材料価格上昇を受けて、仕入単価も上がって来ている。パート・アルバイト等の採用も人の確保が難しくなっている。売上・客数共わずかではあるが上昇。	原材料の値上げ 仕入れ単価上昇 人員確保困難 売上げ微増	その他の各種商品小売業
	円安で、輸入食材の値上がり心配。	円安の影響 輸入材料値上げ	菓子・パン小売業
	油、小麦粉など輸入品目の値上。 最近の青果物は、気候に左右されて生育が著しく成長し、野菜では入荷量増のため安値取引の傾向となっています。今後も異常な高温の予想もあり、青果物への影響が心配されます。また、食生活の変化や人口の年齢構成の変化など生鮮食料品の需要の伸びに期待ができない状況にきている感があります。しかし、安定した取引が市場の責務にあるので、今後も安全・安心をモットーに消費者に届けられるよう努めます。	輸入品値上げ 気候の影響 入荷量増加 安値取引 安定取引 安心・安全	その他の飲食料品小売業 食料・飲料卸売業
	一時停滞していたオール電化への転換率が高まっているため経営悪化を懸念。ガス消費量が少なくなる来年はかなり窮地に追い込まれそうです。どこまで堪えられるか。	オール電化 経営悪化 ガス消費量	燃料小売業
サービス業	ゴールデンウィーク中の新規客の来館が少なかった。	GW 新規客減少	冠婚葬祭業
	宿泊の稼働は安定するも一室単価の減少が続く、宴会は昨年並みの売上げを推移している。企業宴席は少ないが個人宴会(同窓会等)と団体・協会の総会の獲得により安定。食材(フルーツ、エビ、マグロ等)の値上がりが原価を圧迫。	宿泊宴会安定 単価減少 仕入れ価格上昇	ホテル
	企業の業績回復に伴い、宴会場のご利用が好調。また、個人消費も少しずつ戻りつつあり、レストランの利用が増えている。	企業の業績回復 個人消費増加	ホテル
	一時天候不順(涼しい)の為夏物関係は不調でしたが暑さが戻り好調、但し、なぜかここにきて財布の紐が硬くなり景気上昇の機運が見られない。株式や上の人の発言問題、7月の選挙の過熱もあり、消費者が意識して様子見の気配。ボーナスに期待しているようです。当社の的にはトータルで現在のところ問題はありません。	天候の影響 夏物好調 ボーナス	その他の飲食料品小売業
	個人需要は、国内は堅調。5月・6月・7月・8月とも前年超え。5月関西、6月北海道、7~8月は沖縄が人気。海外は5・7・8月が前年超え。5月ハワイ、6・7月はヨーロッパ、8月はハワイとヨーロッパが人気。一方、法人需要は動きが鈍い感がある。	国内旅行堅調 海外旅行好調	旅行業
不動産業界では円安。株価上昇の影響で東京ではマンションが売り出し即日完売等。上向いているようですが柏界隈ではまだまだ雰囲気だけといったところです。	円安 株価上昇 マンション販売好調	不動産代理業・仲介業	

【平成25年5月の業種別業界内トピックス】

<p>少しづつですが、市況は好転しています。消費税が上がる前の駆け込み需要かと思えます。その後の反動が心配です。</p>	<p>市況の好転 消費税 駆け込み需要</p>	<p>不動産管理業</p>
<p>We Love 柏キャンペーンで盛り上がっているのは一部の方々だけのよう な気がします。柏といえども殿様商売の賃料を続けている場合ではないと 近隣地域を回り思います。</p>	<p>We Love 柏</p>	<p>不動産賃貸業</p>
<p>駅前商業地域は他の商業エリアより賑わっていますが、どこにでもある チェーン店が軒を連ねてしまって近くの大型複合商業施設となんら変わら ない。そして通りから少し外れるとテナント募集の看板が目にとまります。 北部新市街地も発展途上の為か、町が賑わうには時間と手間と知恵が掛 かりそうです。常磐線が東京まで延伸予定で便利になりますが、柏商圏 の客層(柏以北)が東京に流出しそうな気がします。</p>	<p>駅前商業地域 チェーン店 北部新市街地 常磐線延伸 東京流出</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
<p>前月と相変わらず。特機する技術を持っている部分のみプラス傾向、その 他、当然マイナス(海外オフショア)</p>	<p>仕事量不変 特機技術</p>	<p>ソフトウェア業</p>

◎仕入れ価格上昇

- ・ 輸入原材料の値上げと重なり業況見通しは厳しい。 その他の職別工事業
- ・ 仕入や人件費が少しずつ上がっている。 土木工事業
- ・ 燃料、材料費がどんどん上がるので経常利益ベースでは引続き苦しい状態が続きます 内装工事業
- ・ 仕入価格がほんの少しであるが、上昇してきた。今後はさらに上昇が予測される。 その他の各種商品小売業
- ・ 特に輸入原料が中心の商品は大幅に原価が上がると思う。 その他の各種商品小売業
- ・ 原材料価格上昇を受けて、仕入単価も上がって来ている。 その他の各種商品小売業
- ・ 食材(フルーツ、エビ、マグロ等)の値上がりが原価を圧迫。 ホテル

◎円安の影響

- ・ 円安の影響と思うが工場内で使用する石油関係の製品が値上りして、経費負担が増加している。 一般産業用機械・装置製造業
- ・ アベノミクス効果による株高・円安影響で世の中の景気は確実に回復に向かっていると思う 百貨店
- ・ 円安の「悪」の影響が続いている。 その他の各種商品小売業
- ・ 円安の影響でこれからもっと仕入れ原価が上がり、利益への圧迫の懸念がされている。 各種食料品小売業
- ・ 円安で、輸入食材の値上がりが心配。 菓子・パン小売業
- ・ 不動産業界では円安。 不動産代理業・仲介業

◎ゴールデンウィーク

- ・ 例年ゴールデンウィーク後売上げが停滞するが、今年はそこそこ出ている。 婦人・子供服小売業
- ・ 5月度GW、気温は低めだったものの、3日(金・祝)・4日(土・祝)の2日間で実施したキャンペーンが奏功し、ファッション商品を中心に堅調に推移した。 その他の各種商品小売業
- ・ GW明けは厳しい状況が続いています。 菓子・パン小売業
- ・ ゴールデンウィーク中の新規客の来館が少なかった。 冠婚葬祭業











平成25年4月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.6に対し、「CCI-LOBO」が▲17.1で柏の方がマイナス幅が1.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.0に対し、「CCI-LOBO」が▲14.0で、柏の方がマイナス幅が2.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.9に対し、「CCI-LOBO」が▲20.7で、柏のほうがマイナス幅が1.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.0に対し、「CCI-LOBO」が▲38.0で、柏の方がマイナス幅が4.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業でいずれも10ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.4に対し、「CCI-LOBO」が△3.2で、柏の方がマイナス幅が8.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業で、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.5に対し、「CCI-LOBO」が▲12.4で、柏の方がマイナス幅が5.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。











平成25年5月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較










景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 18.6	 △ 12.5	 ▲ 27.7	 ▲ 51.5	 △ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 17.1	 1.6	 ▲ 20.7	 ▲ 29.1	 ▲ 12.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.0	 ▲ 4.1	 ▲ 22.2	 ▲ 33.3	 △ 31.2
CCI-LOBO	 ▲ 14.0	 ▲ 0.4	 ▲ 16.4	 ▲ 30.2	 ▲ 4.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 21.9	 ▲ 12.5	 ▲ 38.8	 ▲ 33.3	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 20.7	 ▲ 6.3	 ▲ 27.1	 ▲ 26.4	 ▲ 17.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 34.0	 ▲ 45.8	 ▲ 22.2	 ▲ 42.4	 ▲ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 38.0	 ▲ 58.7	 ▲ 42.6	 ▲ 27.7	 ▲ 33.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 5.4	 △ 12.5	 ▲ 22.2	 ▲ 12.1	±0.0
CCI-LOBO	 △ 3.2	 △ 12.6	 ▲ 6.2	 △ 7.2	 △ 6.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 6.5	 △ 20.8	 ▲ 27.7	 ▲ 21.2	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 12.4	 ▲ 5.6	 ▲ 14.1	 ▲ 16.9	 ▲ 10.8

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：平成25年5月17日～23日

調査対象：全国の417商工会議所が3120業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは、回復基調が続くも、足元で一服感

5月の全産業合計の業況DIは、▲17.1と、前月から▲1.9ポイントの悪化。円安進行に伴う燃料(原油、ガス)・原材料の価格上昇に加え、電力料金などのコスト負担が増す中で、価格転嫁が進まず、収益が圧迫されている中小企業は、製造業・非製造業を問わず広範に及んでいる。13年1月以降、業況は円安・株高を背景に回復基調が続いているものの、足元ではコスト増による採算悪化から、一服感が見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲8.6(今月比+8.5ポイント)と、大幅に改善する見込み。円安に伴い、燃料や原材料の価格上昇による採算悪化が懸念されるため、先行きへの警戒感根強いが、輸出関連企業を中心に収益改善が進む中で、内需型企業への波及や所得の増加に伴う個人消費の一段の持ち直しなどに対する期待は大きく、回復基調は継続する見通し。

産業別にみると、今月の業

況DIは前月に比べ、建設業でほぼ横ばい、製造業で改善、その他の3業種で悪化した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「生コンやアスファルトの価格が上昇しているものの、売上が伸びたことで採算も改善している」(一般工事業)、「住宅建設の受注が増加。他方で、仕入コストは増大しており、受注単価を引き上げなければ業績が悪化する見込み」(土木工事業)、「太陽光関連を中心に好調を維持しているが、電気工事士などの技術職不足が心配」(電気工事業)

【製造業】「建設資材を中心に需要が拡大しており、売上が増加」(石灰製造業)、「価格が大幅に上昇する前に原材料を確保しておきたいが、資金繰りが難しく、思うように進まない」(印刷業)、「受注の増加に伴い、今後の人員補充が課題になっている」(自動車部品製造業)

【卸売業】「食品メーカーからの値上げ要請を受け、自社

も価格転嫁を進めたいが、納入先である小売店の理解が得られるか不安」(食料品卸売業)、「復興関連の需要拡大に伴う資材不足により、取扱商品の入荷が遅れている。更なる価格上昇も懸念される」(建築材料卸売業)、「5月に入り好天が続いたことから、売上が好転。他方で、輸入価格が上昇しており、今後の転嫁が課題」(服飾品卸売業)

【小売業】「高額品は堅調なもの、日用品は不調。また、近隣都市に大型商業施設が相次いで開業し、消費者が流れている」(総合スーパー)、「気温の高い日が続いたことから、婦人服を中心に薄手の衣料品が好調。一方で、食料品は伸び悩んだ」(百貨店)、「スマートフォンでネット価格と店頭価格を比較する利用客が増加。量販店のみならず、ネット販売との価格競争も激化している」(商店街)

【サービス業】「軽油価格が高止まりしており、採算は厳しい。価格転嫁は見込めず、コスト削減も限界にきている」(運送業)、「ゴールデンウィーク中の売上は好調だったものの、食材の価格が上

昇。すぐには転嫁できず、採算は厳しい」(飲食店)、「タイをはじめ、個人や団体の外国人観光客が増加。利用客数は例年以上の水準となっている」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲34.1	▲22.6	▲35.9	▲38.9	▲41.9	▲30.9
1月	▲29.6	▲15.7	▲33.3	▲30.0	▲39.8	▲24.9
2月	▲26.4	▲9.9	▲31.0	▲26.7	▲37.8	▲21.8
3月	▲19.7	▲6.4	▲27.4	▲15.7	▲25.4	▲17.2
4月	▲15.2	2.0	▲24.4	▲15.7	▲25.9	▲7.3
5月	▲17.1	1.6	▲20.7	▲20.4	▲29.1	▲12.8
見通し	▲8.6	6.7	▲7.2	▲9.4	▲22.8	▲6.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI